

議会だより

しらたか

2014年7月22日発行
(平成26年)

Vol.123

山形県白鷹町議会

6月定例会



初の合同チームでのぞんだ中体連地区大会

見事第2位を獲得し地元開催の県大会の出場権を獲得しました

庁舎等整備特別委員会を設置 . . . 2p

- 補正予算 6190 万円を全会一致で可決 3p
- 町への質問・提言(2議員が一般質問) 4~5p
- 外郭団体の経営報告 10p

庁舎等整備特別委員会を設置



敷地計画イメージ図（破線は既存建物を示す）

- 定例会は、6月10日から19日までの10日間で開催されました。
 - 主な議案は、26年度補正予算、条例の改正2件などですが、審議の結果、原案のとおり可決しました。
 - 任期満了の固定資産評価審査委員会委員の人事案件は全会一致で同意しました。
 - 一般質問には2人の議員が、町の農業・観光全般などに論戦を展開しました。
 - 特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出の請願については不採択、グループホーム早期設置の請願は全会一致で採択されました。
 - 議員発議により、「庁舎等整備特別委員会」を設置しました。
- 当局から「町民のあんぜん・あんしん、自然（木材）をいかに環境にやさしい施設」を基本理念として平成30年度完成予定の白鷹町役場庁舎等整備基本構想（案）が示され、その調査研究と、学校などの公共施設の跡地利用について調査研究を行うため、議長を除く全員（13人）で構成するもの。
- 互選により委員長に遠藤幸一議員、副委員長に菅原隆男議員を選任しました。

一般会計

企業支援や農業関連の補助事業
災害復旧費などに

6190万円を追加補正

総額78億2635万円となる

質疑

補正の主なもの

● 一般会計補正予算の主なものは、

・ コミュニティ助成事業	240万円
・ 水田農業活性化生産体制整備事業	840万円
・ 五反田・上の台地区緊急農村防災対策事業	1260万円
・ 企業立地促進事業	1000万円
・ 中小企業緊急金融対策事業費	300万円
・ 災害対策費（災害弔慰金）	500万円
・ 道路河川豪雨災害復旧事業費	646万円
・ 観光施設災害復旧費	950万円

● 財源は国・県支出金、繰越金、町債などで対応します。

議員

中小企業緊急金融
対策事業費は287
号線の地すべりや消費税増税
などの影響を考慮しての対応
かと思うが、現在の状況と周
知は。

当局

制度資金の融資を
受けた企業に対して
利子補給及び保証料補給を行
う事業で、直近3ヶ月の売り
上げが前年度の比較で落ち込

議員

んでいれば融資を受けられる
現在20件ほど見込んでいる。
商工会及び各金融機関を通じ
て周知をはかっていきたい。
事業の内容と事業採
択件数は。

当局

宝くじの収益を原
資として、地域のコ
ミュニティ活動の充実や強化
を目的とした事業に助成され

議員

るものである。この度は滝野
区で行われるイベント等に使
うワンタッチテント・折りた
たみ椅子等の備品購入を行う
もの。
本町の場合はおおむね年一
件程度の採択である。各地区
に要望調査を行ったうえで申
請をしている。
観光施設災害復旧
費はパレス松風法面

当局

崩壊によるものであるが、工
事の途中で崩落が起こり現在
も亀裂箇所がある。今後どの
ような安全対策をとっていく
のか。
国・県の指導を受
けながら、設計業者・
施工業者・町の三者で連携を
密にしながら安全第一に工事
を進めていく。



がんばっている地元企業

中山間地域における 農業振興への取り組みは

町長 農家所得の向上につながるように取り組んでいく



田中 孝議員

農業の現状認識に対する方策は

田中 中山間地が多く高齢化が進み、担い手不足で農村の地域をどう守るかを問う。

町長 産地交付金対象作物への誘導や日本型直接支払の導入、農地中間管理機構による農地の集積などメリット措置を十分に生かした取り組みが必要と考えている。

自然環境の保全は

田中 農業が営まれてこそ自然環境が守れると思うが町の考えは。

町長 特に水田については、出水調整や土砂の流出を抑える役目を持つほか、多方面にわたり国土保全に大きく寄与していると考えられる。農業・農村を守ることは町全体を守ることにつながるものであり、地域の方々と一緒になって農地の維持保全に取り組んでいかなければならないと認識をしている。

中山間直接支払への取り組みはどうか

田中 現在、交付金は個人配分4割未満、共同取り組み6割以上だが今後の方針は。

農林主幹

地域の事情により共同取り組みに重点を置いて取り組んでいる集落もある。地域の話し合いの中で進めていけるような基本方針の見直しに取り組ん

でいきたいと考えている。

担い手が育つ環境作りは

田中 担い手がすすんで農業に取り組むには水田の基盤整備が必要と思うが。

町長

田畑の基盤整備等々は莫大な経費がかかる。実際にとり組まれる地域の方々が、人・農地プランの中で検討しながら、農地を守っていくことについて協力が得られれば、町としても支援をしていくことは考えられる。

新たな事業への取り組みは

田中 新たな事業である農工商観連携での農と食による地域の魅力創造事業の取り組み状況を問う。

農林主幹

県単独の補助事業で、農工商観連携の組織「白鷹豆プロジェクト推進協議会」を立ち上げた。町の振興作物の枝豆の加工を主としながら、生産額の向上、産地づくり、ブラ

ンド化を目標に進めている。

農業委員会の役割は

田中 農地中間管理事業へのかかわりと規制改革の中での農業委員会の役割を問う。

農業委員会会長

農地中間管理理事業への具体的なかかわり方は白鷹町農業再生協議会での調整と考えている。農業委員会は法令に基づき許可可業務のほか優良な農地の確保及び有効利用、農業者の意見を踏まえた政策提案など、農業者の代表機関として重要な役割と機能を担っている。



萩野ほ場整備地

観光4シーズン化の課題と方向性は

町長 滞在型観光の推進とリピーターの拡大が基本



関 千鶴子議員

観光4シーズン化の課題と本町の観光の方向性は

関

地域づくり型観光として取り組んできた観光4シーズン化の課題や本町の観光の方向性を問う。

町長

これからの観光には、量から質への転換の視点が必要で、「見る」「食べる」「体験する」「交流する」をキーワードに、新しい魅力づくりに向け滞在型観光の推進とリピーターの拡大を基本に展開していきたい。

天然記念物や文化財の保存は

関

県の天然記念物に指定された桜をはじめ、地域にある文化財の保存への考え方を問う。

教育次長

文化財や天然記念物に指定されても、基本的には所有者や保存会などで維持管理するものだが、町としても必要な支



のどか村まつり

援を行う考えだ。

町長

地域の方や専門家の意見を聞きながら、保存ということ念頭におき対応したいと思う。

旅行業の取得を検討しては

関

人と人とのつながりや地域にある観光資源をいかして地元密着型の観光を推進するのに、いずれかの機関で旅行業の取得を検討してはどうか。

町長

どこがどういう形でとは言えないが、ぜひ検討材料の一つとしたい。

事務局長は兼任でない方がよいのでは

関

町の観光協会と商工会の事務局長が兼任の状況にあるが兼任でない方がよいのでは。

町長

産業センターを設置して3年。産業戦略会議（商工会、観光協会、JA、アルカディア財団、山形県酪農業協同組合）で情報

交換をしながらすすめ、積み重なってきているなかで、今は兼任ということだ。

観光協会の体制は

関

人材育成という観点からの職員体制の検討や法人格の取得を検討してはどうか。

町長

人材を確保することは非常に大事なところだが、現在の観光協会の収支の不足部分を行政では簡単にいかないだろう。法人格を取得するかしないかの検討はしていく必要があると思う。



滝野交流館にて

総務厚生常任委員会

進行する人口減少と新たな行政課題に適切に対応を

6月17日に所管事務調査を行いました。説明事項と主な質疑内容は次の通りです。

総合計画後期計画策定の状況について

委員 アンケートの回答者を無作為に選んだとはどのようにしたか。

当局 20代以上を対象に男女比を同じく、地区割合は人口比と同じく実施した。

委員 前期計画を振り返っての問題点は。

当局 赤ちゃん100人プロジェクトに力を入れてきたが、出生数が下がったことについては考慮しなければならない。特定検診も目標達成できていないことから健康、子育て、出生について改めて検討していく。

委員 あなたが望む白鷹町のアンケート結果を踏まえ、コミュニティセンター化との関連は。

当局 前期計画を踏まえ、今後の視点と合わせて後期計画を考えていくとともに、庁内会議などで方向性を



未来のたからたち

示していきたい。

役場庁舎等整備基本構想(案)について

委員 有利な財源があるとの説明を受けたが、なぜ今なのか。

当局 震災を体験し今後の方策を練るうえで、耐震に数億円かかることから、庁舎の建築を判断した。有利に運ぶために、どのような制度を活

用できるかの視点で取組んできた。
委員 現在の庁舎維持費と今後の維持費は検討したのか。

当局 25年ベースで、現在の庁舎は約2800万円が見込まれる。新庁舎は光熱費は再生可能エネルギーや気密性の建物として検討している。

委員 パブリックコメントの意見で参考になったものは。

当局 県産木材又は町内産木材を使用して環境に配慮した整備をするべきとの意見により木造とした。

コミュニティセンター化について

委員 地区公民館と分館の関係は今までと同じか。

当局 分館との関係や人事はこれまで同様で分館長と書記の手当はまちづくり交付金でと考えている。

委員 コミュニティセンター立ち上げ後の職員の支援体制は。

当局 できるだけ蓄積のある職員の支援を考えていきたい。



コミュニティセンター視察研修（十王地区）

地域情報化計画に基づく
情報化の推進について

情報センターが行なっていたプロ
バイダ事業については白鷹町アルカ
ディア財団に委託して行なっていた
が、町が実施していく意義は薄れて
いることから民間事業者の日本アル
カディアネットワーク（JAN・長
井市）による運営に移行する。

町誕生60周年記念事業に
ついて

記念式典 平成26年10月5日(日)
記念イベント
○我が家のお宝展 8月2日～8月24日

○いわさきちひろ展

9月27日～10月26日

○葛飾北斎展

11月8日～12月7日

会場 文化交流センターあゆむ

委員 保育士の派遣については今後
どのように考えているのか。
当局 現在は保育士の派遣は行なっ
ていない、当局と協議しながら方向
性を示していきたい。

有限会社ケイエスしらかの
経営状況について

大規模養豚場悪臭問題特別委員会

6月10日に特別委員会が開催さ
れ、大規模養豚場の状況について
当局から説明がありました。
4月30日に町と東根地域住
民と養豚業者による東根環
境保全会議が開催され、会
長に副町長、副会長に小山
沢区長と土地改良区地区代
表理事が選出された。

蔵王ファームの視察にお
いて、脱臭装置は強力な
ファンで臭いを一ヶ所へ集
め、水及びバークのフィル
ターを通して排出するもの
で、臭いを抑える効果は大
きいと報告を受けた。白鷹
にもいずれ導入予定という
考えであった。施設の現状
は、5月で汚物処理が終了
し洗浄を開始している状況
で、洗浄後に消毒を行う予
定である。豚の導入は流行



豚舎内視察風景

産建文教常任委員会

各課の連携により早期の災害復旧
推進を

6月18日に所管事務調査と現地視察を行いました。説明事項と主な質疑内容は次の通りです。

コミュニティセンター化について

委員 コミュニティセンターとなった場合の公民館使用料は。

当局 条例で定め一律と考えている。使用料は指定管理者の収入になる。

委員 コミュニティセンター化が積極的に事業を行なうことになるかと、責任も重大となるがどうなるのか。

当局 指定管理の関係になるが、町の施設なので、町の責任もあるが指定管理者の適切な管理が重要と考える。

農地中間管理事業について

委員 借り受けた農地の管理費はどうか。

当局 中間管理機構が一旦土地を借り受けて、借り手が見つかるまで管理機構が管理し、管理費について

が交付すると聞いている。

一般財団法人白鷹町アルカディア財団の経営状況について

委員 前年度比の給与手当が増加している要因は。

当局 正社員の4人増や、パート職員の増員によるもの。

委員 株式会社にする計画はあるか

当局 法人化への取り組みについては、理事会でも検討している。

委員 経営判断は理事会側と密に話をする必要があると思うが。

当局 経営全般については理事会。評議員会については理事の選任等である。

観光交流大使の委嘱について

委員 交流人口の増加に影響力のある方たちと思う。失礼のないような処遇はどのようにするのか。

当局 産業として観光を捉えている交流人口を増やす趣旨からも観光交流大使が十分に発揮できるように頑

張りたい。

白鷹町土地開発公社の経営状況について

委員 深山住宅用地の売却はどうか。

当局 用地については、隣接する方に交渉中である。



国道287号災害現場

平成25年7月豪雨災害の 復旧状況等について

委員 パレス松風露天風呂うら斜面の再崩落について、設計・施工等検



西高玉の桑畑が大豆畑に変身

証したと思うが、最終的な原因をどのように捕らえているのか。
当局 原因は雨が浸透し盛土が崩壊したと捉えている。

委員 また同じことが起こることは

ないのか。

当局 全体が崩れるなら何か原因があると思うが、今回は部分的なものだったため崩れた部分を押さえることを判断させてもらった。

学校統合の準備状況について

統合中学校の状況は校章については決定し、昇降口棟及び普通教室棟は完了。

町民武道館は平成28年1月の供用開始を予定。

草地畜産基盤整備事業について

粗飼料生産への取り組みで、新たな飼料基盤の確保や転作田・稲わら資源等の活用により、足腰の強い酪農経営を育成し経営の安定向上をはかる。

議会活性化特別委員会

5月30日区長会連合会（8人）と議会代表（7人）が議会活性化について意見交換会を行いました。6月10日に特別委員会が開催され、区長会連合会との意見交換会の報告と今後の進め方、スケジュール等について検討するために開催され、区長会連合会での個人的意見としては、定数は現状のままではいのではとの意見が出されたとの報告がありました。なお区長会だけではなく、もつと意見を伺ったほうが良いとの意見が大多数でありました。



研修会風景



一般財団法人 白鷹町アルカディア財団

理事長 五十嵐 政 司

平成25年度は「一般財団法人」への移行2年目として、引き続き「ICT技術を用いた住民活動のサポート事業」と「住民の健康づくりサポート事業」を活発に行った。

経営改善3カ年計画の2年目という重要な年であったが、町内全域に甚大な被害をもたらした7月豪雨により、露天風呂やゴルフ練習場の閉鎖、菖蒲萩野線の通行止めなど、営業に大きな影響を受けたこともあり、収入合計は3億3537万円前で前年比1048万円減となり、963万円の赤字となった。

○主な項目の利用者数

宿 泊	8716人 (前年比90人減)
宴 会	2万2904人 (前年比81人減)
入 湯	6万7903人 (前年比3098人減)

○主な項目の売上金額

宿 泊	7251万円 (前年比330万円減)
飲 食	1億2421万円 (前年比655万円増)
入 湯	1280万円 (前年比 50万円減)
売 店	2168万円 (前年比351万円減)
屋 外	603万円 (前年比 45万円減)



ケイエスしらたか

代表取締役 藤 島 丈

平成25年度は、保育士の業務が無くなり、町立病院、訪問看護ステーション、町民課からの業務受注により、収入合計は7975万3224円、当期純利益は7856円となった。

○理 事 2人 (非常勤、無給)

○職 員 25人

病院医療事務員	11人
病院事務補助員	5人
病院調理師	7人
訪問看護医療事務員	1人
国民健康保険医療事務員	1人



白鷹町土地開発公社

理事長 船 山 仁

平成25年度は、公有地取得事業については平成20年度に取得した福祉用地 (5,900㎡) を売却して事業を完了した。あっせん事業については四季の郷住宅用地の管理業務を行った。

事業収益に受取利息などを加えた収入金額は9174万8415円で、事業原価や一般管理費を差し引いた当期利益は644万8751円となった。

○事業資産

深山住宅用地 (2,946㎡) 440万7145円



四季の郷 分譲地

人事

任期満了にともなう固定資産評価審査委員に江口信利氏(箕和田)が引き続き選任され、全会一致で同意しました。



条例

■白鷹町一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正

災害派遣手当の支給対象に、新型インフルエンザ等対策特別措置法及び大規模災害からの復興に関する法律により派遣された職員を加えるもの。

■白鷹町医療給付事業に関する条例の一部改正

ひとり親家庭等医療の対象者に、現に配偶者に保護命令が発せられた者及びその子を加え、医療費の助成を行うもの。

すべて、全会一致で承認されました。

契約

■7月18日豪雨災パレス松風法面崩壊災害復旧工事請負契約の一部変更

- 工事を実施した結果、設計の一部を変更して実施する必要性が生じたことに対応する。
- 契約金額に1238万5440円を加え、7502万5440円とする。



パレス松風露天風呂うら斜面崩落現場

請願

審査の結果はどうなった

採択された請願

■グループホーム設置早期実現の請願

請願者 社会福祉法人 白鷹こぶし会
理事長 時田 進
採択する事に全員賛成

不採択になった請願

■特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出についての請願

請願者 西置賜革新懇話会
代表世話人 今泉 義憲
採択する事に賛成1人、反対12人

賛成意見

特定秘密保護法は、衆・参院の審議期間が1ヶ月という審議不十分のまま強行可決されたもの特定秘密の範囲があいまいであり、重大なものは秘密を指定するのが行政機関の長で、秘密の範囲をいくらでも広げることが可能になると思われること。「国民の知る権利の保障に資する報道または取材の自由十分に配慮しなければならぬ」とあるが「知る権利を保障する」とはならないことをもって請願採択の賛成討論とする。

追跡

— あの質問のゆくえ —

保育園保育料の負担軽減は

保育園に3人同時に入所の場合、3人目が無料だが、同時入所でない場合も無料にしてはどうか。
(平成24年12月議会)

当局答弁

第3子無料化を検討

県内の他市町村の動向、実施した場合の町財政への影響を確認して、第3子無料化の検討を進めてまいります。

どうなっている



さくらんぼ狩りを楽しむ
さくらの保育園児

第3子無料化の実施

子どもを産み育てやすい環境づくりとして、多子世帯の保育料負担軽減をはかるため、平成25年度より多子世帯子育て応援事業として中学3年生以下の子どもが3人以上いる家庭における第3子以降の子どもの保育料を無料にしています。平成25年度は児童数76人、保育料軽減額1861万8千円となりました。

● お手持ちのパソコンで議会中継をご覧ください。
● 録画でもご覧いただけます。

● 議会たよりのご意見・ご感想などを
議会事務局までお寄せください。

昨年11月、県天然記念物指定古典桜が薬師桜を含めて7本になり、数々の古木、巨木が点在する国内唯一の「古典桜の里」が自慢の町です。「この町はどこにいても、桜がたくさんあるんですね」観光客の方からも度々聞かれます。

さらに桜いっぱい町をめぐらして「古典桜の里基金」を設けてみてはどうでしょうか。古典桜を守りながら、記念の植樹や、荒れた山林、山里への植林、又、桜に関連した事業等々。桜の原種といわれるエドヒガン桜の力をお借りし、100年計画のもと、この町ならではの事をすすめて欲しいと願っているところです。

(新野久子)

町民の声



八乙女ヶ丘のあじさい

広報委員

委員長 佐藤 京一
副委員長・編集長 山田 仁
委員 小口 尚司
委員 新野 いく子
委員 奥山 勝吉
印刷・長谷川印刷

《奥山》

昨年の集中豪雨の被害もまだまだ復旧に時間がかかるようですが、本格的な梅雨の時期が来ることに不安が募る思いであります。

議会たよりの「ありのままに」「わかりやすく」「住民とともに」が基本であり、当議会においても早くから本議会のインターネット中継で、議会の活動状況を広く公開している中、議会広報誌の役割として、議員活動や行政の情報公開の媒体としての重要性を再認識し、新しい事業等についての情報提供と皆様のご意見やご要望を広く公開するとともに、町民の方々と共につくる広報誌に取り組んで行きたいと思っております。

編集後記

